

年度 2008 学期 前・後期	曜日・校時 前火3/前火4/後火3/後火4	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	スポーツ演習(バレーボール・バドミントン) Sport and Exercise		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	火3:La~d、火4:Le・f及びP18・19	科目分類 健康・スポーツ科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 熊野晃三 / Eメールアドレス: kumano@n-junshin.ac.jp / 研究室: 総合体育館 2F(体育教官室) /TEL: 095-846-0084 (長崎純心大学 : 内線 315) /オフィスアワー: 火曜日12:20~12:50			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 身体運動の効果や実践方法、またはスポーツの文化、ルール、技術を習得し、生涯にわたって身体運動やスポーツに親しむことのできる基礎知識や技術を習得することをねらいとする。</p> <p>授業方法: 体育館を中心に、各種目についての解説、ならびに技術習得を行う。 習得した技能を活かしながら、積極的にそれらが発現できるような試合を展開していく。</p> <p>授業到達目標: 獲得しようとする技術が、どのように構成されているかということの的確に認識し、スモールステップを踏みながら着実に習得していく。 獲得した技能をできるだけ試合の中で実践できるように努めていく。 技能習得の合理的な方法を身につけ、生涯を通じてスポーツ活動に親しむ能力と態度を養う。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>基本的なレクリエーションワークの実践。 バレーボールのスパイク技術の習得。スパイクを交えたゲームの展開。 バドミントンの基本技術の習得と戦術を意識したゲームの実践、そして対戦表の作成。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション(コース別演習のコース決定など)</p> <p>第 2 回 演習 1 (レクリエーション) レクリエーションワークの解説と実習</p> <p>第 3 回 演習 2 (バレーボール) 技術習得の方法論と解説、オーバーハンドパス</p> <p>第 4 回 演習 3 // アンダーハンドパス、スパイク</p> <p>第 5 回 演習 4 // スパイク、サーブ、異質グループによるゲーム①</p> <p>第 6 回 演習 5 // 異質グループによるゲーム②</p> <p>第 7 回 演習 6 // 異質グループによるゲーム③</p> <p>第 8 回 演習 7 // ソフトバレーボール</p> <p>第 9 回 演習 8 (バドミントン) 解説と基本ストローク</p> <p>第 10 回 演習 9 // シングルスゲームの説明、異質グループによるリーグ戦</p> <p>第 11 回 演習 10 // 等質グループによるリーグ戦①</p> <p>第 12 回 演習 11 // 等質グループによるリーグ戦②</p> <p>第 13 回 演習 12 // 等質グループによるリーグ戦③</p> <p>第 14 回 演習 13 // ダブルスゲームの説明、等質グループによるリーグ戦</p> <p>第 15 回 全授業の総括(筆記試験、実技試験を含む)</p>			
キーワード	生涯スポーツ、合理的な技術習得、スポーツ文化		
教科書・教材・参考書	教材 : 必要に応じて授業計画にそったプリントを配布する		
成績評価の方法・基準等	授業への取り組み方、および態度 : 20% 実技試験 : 40% 筆記試験 : 40% 全授業への出席を原則とし、実技試験、授業への参加状況、筆記試験などによって総合的に評価する。ただし、全期間の欠席が3回以上の場合には原則として失格になる。		
受講要件(履修条件)	演習では、指定したユニフォームは特にはないが、動きやすいスポーツウェアに着替えて出席すること。屋内での授業実施に際しては、必ず、屋内用の体育館シューズを準備しておくこと。イヤリングなどの装飾品は、はずしておくこと。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			